

TTC 第11回DSL専門委員会スペクトル管理SWG

日付:2004年5月14日

提出元:NTT東日本

題名:ISDNのカッド内収容状況について(追加報告)

1. はじめに

本寄書では、第9回スペクトル管理SWG寄書(SMS-09-NTTE-02)によるISDNのカッド内収容の説明に対して、直流抵抗値810を超えて提供されているかの確認を要望される数社の要望に応えて、前回提出したデータの一部について直流抵抗値について確認し、弊社の考えを示すものである。

2. 弊社が確認した事項

SMS-09-NTTE-02において、弊社収容局56ビルのISDNデータを抽出し、換算線路長2.7km以遠で提供されるISDN(約10.6万回線)のうち、2Wケーブルで提供されているISDNだと確認が取れた回線が約4.9万回線存在し、2.7km以遠においても2Wで提供されていることを確認した(表1)。

表1:2.7km以遠で提供されるISDN回線(56ビルデータ) (単位:回線)

換算線路長(km)	2.7-3.0	~3.5	~4.0	~4.5	~5.0	合計
2Wと確認済の回線数 ^{*1}	23,079	21,833	4,063	369	54	49,398
2Wと未確認の回線数 ^{*2}	28,865	24,060	3,447	274	96	56,742
合計	51,944	45,893	7,510	643	150	106,140

*1:同一カッド内の相手回線が、別のISDNまたはDSLであったISDN回線数

*2:同一カッド内の相手回線が、空き回線、アナログ電話、専用線等、または4W使用である回線数

今回、表1の2Wケーブルで提供されているISDNだと確認が取れた回線中、各換算線路長区間毎に損失が大きい10回線を抽出し、計50回線の直流抵抗値について、線路情報開示システムデータによる確認を行ったところ、50回線全てが直流抵抗値810を超えていた(表2)。

表2:2.7km以遠で提供されるISDN回線の直流抵抗値 (単位:回線)

換算線路長(km) \ 直流抵抗値()	~810	~1000	~1200	~1400	~1600	合計
2.7-3.0	0	7	3	0	0	10
~3.5	0	10	0	0	0	10
~4.0	0	4	3	3	0	10
~4.5	0	0	0	9	1	10
~5.0	0	3	0	0	7	10
合計	0	24	6	12	8	50

3. NTT 東日本の考え

弊社は、0.4mm ポリエチレン絶縁ケーブルにおける換算線路長で 5km まで、かつ、直流抵抗値が 810 を超える場合においても 2W ケーブルで提供されている ISDN が存在することを実データを持って確認した。

以上のことから、JJ100.01 第 3 版においても ISDN 回線を第 2 版同様に、0.4mm ポリエチレン絶縁ケーブルにおける換算線路長で 5km まで、与干渉源として干渉計算を実施するべきと考える。

以上